

## 研究テーマ：Speaking 力を向上させるための指導の工夫

所属 高知小津高校

氏名 上田 妙

R G S H 1

## 1 研究の背景

1 年生理数科（8 H）個性的な性格の生徒が多く、明るいクラスだが 4 月当初の実力テストでは、他のクラスと比較すると最も英語の平均点が低く、苦手意識を持っている生徒も多い。そこで生徒の意識に関するアンケートを実施すると、やはり「話したい」という気持ちは多くの生徒も持っており、Speaking の指導を通じて英語への興味関心を伸ばしたいというのが私の今年の取り組みのテーマとなった。しかし、本年度より新しいシラバスを導入し学年で横並びの取り組みをしているため、テストの範囲の課題をこなすことに追われてなかなか独自の取り組みができにくかった。

## 2 リサーチクエスト

「生徒が互いに英語で自分の身の回りの事柄や興味のあることなどについて英語で会話できるようにする」

## 3 予備調査

## 予備調査 1 授業観察の結果

元気がよく、活発なクラスであり、ペアワークなども殆どのものが熱心に取り組んでいる。苦手意識の強い英語嫌いの生徒も数名おり、音読などの活動にも「だるい」といったしぐさをみせる。

## 予備調査 2 英語力を示すデータ \* 校内実力テスト（クラス平均）

4 月に行われた実力テストでは校内では最低の結果であったが、6 月の 2 回目の実力テストにおいては若干、他クラスとの差が縮まっていた。

## 予備調査 3 アンケート、授業評価の結果（別紙）

英語を好きと答えた生徒が 3 名しかおらず、嫌いと答えた生徒は 19 名もいた。その反面、英語の必要性については 40 名中 30 名が必要であるという回答であった。授業についてはわかりやすい 5 名、ややわかりやすい 24 名、ややわかりにくい 9 名、わからない 2 名という結果であった。

## 予備調査 4 生徒の自己評価

授業への取り組み方については殆どの生徒（35 名）がよいと評価している。（別紙 1 アンケート参照）但し、全国模試などの手ごたえがあまりなく、やはり英語は難しいという意見をもらす生徒が多い。

## 4 仮説の設定

仮説 1 生徒の英語を話すことに対する意欲を高め、さらに発音の間違いなどを改善するために、音読することが効果をもたらすであろう。

仮説 2 話せないことの大きな要因として英文の語順を理解できておらず、組み立てができないということがある。特に疑問文を組み立てることができなければ会話は続かない。疑問文を中心とした語順指導が効果をもたらすのではないか。

仮説 3 ある程度の長さの文をレシテーションさせることにより、英語のリズムに慣れさせ、英語を話しているという実感をもたせることがさらに意欲を高めるのではないか。

## 5 計画の実践

## (1) 音読シート読み

英語 教科書（ONE WORLD Lesson4 『Hey, Do You Like Rock-And-Roll』）を全員に暗唱させるために一部を日本語にしてある音読シートを作り、1 学期に何度か音読練習をした。2 学期になってクラスでグループに分けてグループでレシテーションの発表をし、生徒たちが互いに評価をしあった。

## (2) 疑問文作り

「英文の語順を理解していないため生徒たちは文の組み立てができない」という仮説から 1 学期は授業の最初にほぼ毎回 2 ～ 3 の様々な英文を疑問文に直し、口頭で答える練習をした。2 学期は数回であるが疑問文だけでなく簡単な日本文を英語で表現できるかを『構文プロジェクト』とやや大げさに銘打って

簡単な文型の和文英訳に取り組んだ。

(3) 語彙指導

少々文法の誤りがあっても、語彙が頭に浮かぶようであれば、会話をしようという気になるのではないかと考え、単語シートを使って何度も音読したり、シートを使ってペアで問題を出し合い語彙の定着に心がけた。また2学期は授業の始めにビンゴを使っての語彙指導を行ったが、教員が英単語を読み上げた時必ず声に出してその単語をリピートさせながらビンゴシートにマークさせるという風にした。

(4) O C C の時間でのチームティーチングによる表現指導

いくつかのテーマの元で Speaking 練習を行った(全1年生共通)

How about ~ ? Would you like to ~ ? How would you like to ~ ? などの勧誘表現それに対する受け答えなどを特に練習する

(5) 英語教科書(ONE WORLD Lesson 8 『Who Are The Best Ecologist 』)のタスクを利用して本文に記述されてある登場人物のうち誰がベストエコロジストになるのか自分の意見を述べ、その理由を簡単に述べる練習

(6) 夏休みの課題として「英会話ぜったい音読(入門編)」(講談社)のうちから Lesson3,5,7,9,10 音読練習をさせて2学期に音読テストを2回実施。(テープによる録音)3学期にも引き続き行う予定。

## 6. 実践の結果

(1) アンケートの結果より

アンケート(別紙)を見ると、生徒の英語の授業に対する取り組みはますます良いが、家庭学習が少ない。校外模試の結果も1回目と比べると、伸びてきているが、やらない生徒との差も大きくなっており指導の面ではだんだんやりにくくなっている。Speaking だけに関して言えば「英語を話すことが少しでも向上したと思いますか」という問いに対してアンケートに解答した36名中30名が向上したと実感しているので、生徒にはますますの達成感があるのではと思われる。

(2) A L T, 教員側の観察

T T の授業で行った内容(電話で約束をするロールプレイや、自分が一番うれしかったこと、悲しかったことなどを簡単に一人ずつスピーチをするなど)積極的に参加でき全員が時間内で発表等も終わらせることができおり、A L T もこのクラスの生徒の反応のよさを高く評価してくれている。もともと話すのが好きな生徒も数名いるが、全員が音読練習でも段々と声も大きくなり、積極性も増していったように感じた。

(3) 構文プロジェクト等の結果

アンケートによれば36名中24名の生徒が自分の英語力に変化があったと答えており、特に文法や文構成がわかってきた、語彙が増えたなどの解答が多かった。これらの活動においてはどちらかというと「話す」というよりは「書く」という活動に重点がいったしまったような気がするの否めないが、こういった多くの活動が統合されて多面的な英語力というものが形成されていくのだろうと思われるので、すぐに会話力に結びつかなくとも今後の彼らの英語力の構築においてはプラスとなっていくと思われる。

(5) 音読等の結果

それぞれの録音したテストのテープを聞くと、発音等の細かい点はいくらでも指摘する点があると思うが、全員がコミュニケーションには支障のない程度に正しく大きな声で音読できているように思えた。英語を声に出すことについて抵抗のない生徒が21名というのはこういった活動の繰り返しの成果のようにも思えるが、一方でまだ14名の生徒が口に出すこと自体に抵抗を感じている。性格等のこともあるのでなかなか難しい面はあるかもしれない。

## 7. 検証と成果、今後の課題

最後にリサーチクエストとして「生徒が互いに英語で自分の身の回りの事柄や興味のあることなどについて英語で会話できるようにする」という項目の検証として、テーマを「冬休みの予定、計画などを話し合いお互いに遊びの約束をとりつける」という課題を設定し、最初に表現等を提示した後、ペアで英語だけ会話させワークシートに内容を書かせ数名に発表させた。あまりシートにはきちんとかけていないが、生徒の会話をしている様子や発表を聞くと、全員が英語で課題をなんとかこなしている様子が窺えた。やはり、スピーキングテストなどの検証が必要であろう。自分としてはもう少しリサーチクエストを具体的に設定すべきであったと反省している。音読や会話に取り組む生徒の姿勢に多少の変化は見られても、英語で会話をするということは短時間で「できるようになった」というようなこと

はなかなか言えない。様々な活動が時間をかけて統合されて、スピーキングの力も上昇していくのだから。